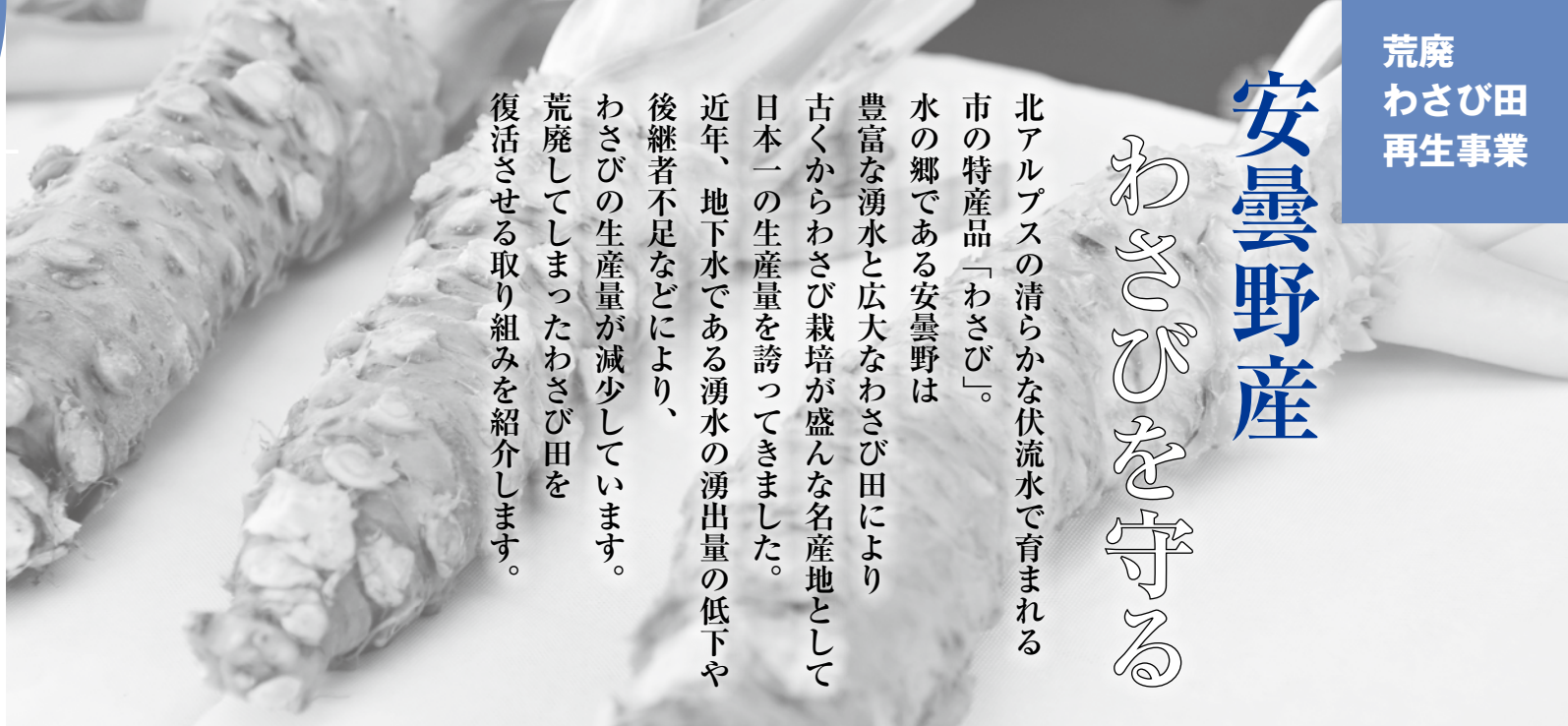


# 安曇野産

## わさびを守る

北アルプスの清らかな伏流水で育まれる市の特産品「わさび」。  
水の郷である安曇野は豊富な湧水と広大なわさび田により古くからわさび栽培が盛んな名産地として日本一の生産量を誇ってきました。  
近年、地下水である湧水の湧出量の低下や後継者不足などにより、わさびの生産量が減少しています。  
荒廃してしまったわさび田を復活させる取り組みを紹介します。



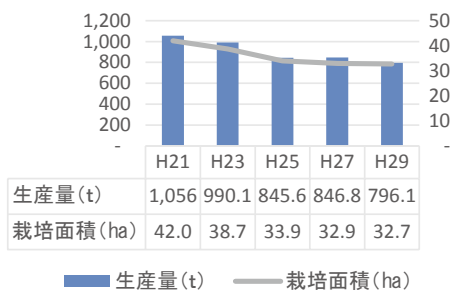
### 意外と知らないわさび栽培

全国各地でわさびは生産されていますが、栽培方法は地域によって違います。安曇野では、絶えず湧き出る清冽な湧水を利用する「平地式」という栽培方法で、大きな川の近くの平坦地を掘り下げて畝を作り、わさびを植え付けます。わさびは水に含まれる養分で生長し、収穫には1年半〜2年程かかります。

### 生産量と栽培面積の減少

市内のわさび生産量と栽培面積は地下水である湧水の湧出量の低下や後継者不足などにより年々減少傾向にあります。(図1)

【図1】長野県の水わさび生産量・栽培面積の推移



農林水産省 特用林産基礎資料より

### 安曇野ブランドの維持 再興への試み

市では、安曇野のわさび生産量を維持し、地域の雇用を創出するため、荒廃わさび田の再生や新たな栽培方法の検証、海外輸出の推進などの取り組みを平成29年度から行っています。  
財源は国の地方創生推進交付金を活用し、平成32年度までの4年間を対象としています。1年目の29年度は、信州山葵農業協同組合青年部が中心となり、穂高の荒廃わさび田を再生しました。

再生後、わさびの苗を植え付け、11月3・4日開催の「新そばと食の感謝祭 農林業まつり」に合わせ、早生品種である「鬼緑」を収穫し、展示しました。  
また、本年度の事業は、再生したわさび田にパイプハウス2棟(通常ハウスと低コストハウス)の整備を予定しています。  
今後、荒廃わさび田の再生を推進するとともに、露地栽培とハウス栽培の違いについて検証していきます。

岡農政課集落支援担当

TEL 71・2429 FAX 71・2507

### 地域にあり続ける水道

未来にわたって安定した水道水を供給するためには、財政収支の見通しに基づく計画的な資金確保が必要です。

市では、耐用年数を迎える水源施設の健全度を診断・評価し、優先順位を設定の上、整備を検討することや、施設の統廃合などの施設整備の合理化を進めています。

また、老朽化が進む水道管の耐震管への布設替を優先的に実施し、長寿命化を図り更新時期の延長にも取り組んでいます。  
これらの費用を確保するには、給水原価と水道料金とのバランスを保つことが大切です。定期的にこのバランスを見直し、水道料金の適正化に努めます。



次回は「水道事業の経営状況」について、1月号(1月23日発行)で紹介します。

## シリーズ

上下水道のあり方を考える

## 第1回

### 信頼を未来へつなぐ安曇野の水道

## 清らかで良質な水をいつまでも

上水道・下水道の現状と課題を今号から紹介します。  
第1回は水道事業の取り組みについてです。

岡経営管理課庶務担当

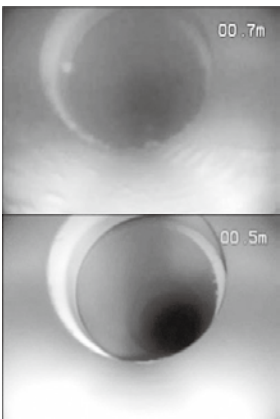
TEL 71・2271 FAX 72・3176

### 安全な水の供給

市の水道水は、すべて清浄な地下水を水源としています。地下水は河川水に比べ、水量・水質・水温が安定した良質な水源です。

市では、地震などの影響で地下水の濁りが発生した時のために、濁度計の設置を進め、適切な水質管理を目指しています。

また、経年により水道管内部の付着物などが剥がれ、水が濁



管内洗浄前(写真上)と洗浄後(写真下)

### 災害に備える

### 設備を整える

災害時に水道が止まらないよう、拠点配水池に非常用発電装置を設置し、地震に備えた水道施設や水道管の耐震化を進めています。

市内水道管の総延長約1000kmの内、耐震性の低い硬質塩化ビニル管の占める割合は、平成29年度末で約22%となっています。全ての管路を耐震化するには膨大な費用と期間が必要になります。

現在、水源から拠点配水池までの管や、避難所・病院などの施設への管を優先し、計画的に耐震化を進めています。

### ●災害対策スケジュール

| 方策                     | H30・H31 | H32・H33 | H34・H35 | H36・H37 | H38 | 現在値           | 最終目標値         |
|------------------------|---------|---------|---------|---------|-----|---------------|---------------|
| 指定避難所等重要給水施設への給水ルート耐震化 | ←       | ←       | ←       | ←       | ←   | 主要管路耐震化率22.5% | 主要管路耐震化率71.8% |
| 非常用電源設備の整備             |         |         | ←       | ←       | ←   | 整備率25%        | 整備率100%       |
| 他水源からの配水が可能となる施設整備     |         |         |         |         |     | 送水管整備率        |               |
| ①豊科・明科地域整備事業           | ←       | ←       | ←       | ←       | ←   | —             | 100%          |
| ②穂高豊里整備事業              |         |         | ←       | ←       | ←   | —             | 100%          |
| 防災訓練の実施                | ←       | ←       | ←       | ←       | ←   | 年1回           | 年1回以上         |
| 震災等を想定した災害対策マニュアルの作成   | ←       | ←       | ←       | ←       | ←   | —             | 策定            |

### 体制を整える

災害時の被害を減らすためには、迅速な対応を行うための体制づくりも重要です。

いつ起こるかわからない災害に備え、市では毎回テーマを変えて防災訓練を行っており、訓練の経験を基に、具体的な行動を示した「災害対策マニュアル」を作成し、緊急時の対応の強化を図っていきます。